

地方別に施策提示

社会資本整備 重点方針案 外環道、圏央道など盛る

国交省

国土交通省は、社会資本整備重点計画に基づいて各地方ブロックごとに策定する「社会資本整備重点方針」の案をまとめた。北海道と沖縄を含めた全国10のブロックごとに、道路や空港、港湾などの社会資本の具体的な整備目標や主要施策などを示した。関東ブロックでは、東京外かく環状道路と首都圏中央連絡自動車道といった高規格道路の整備、近畿ブロックで

は国営飛鳥平城宮跡歴史公園の整備事業などが主要プロジェクトに挙げられている。国交省は、7月10日まで同案に対する意見を募集しており、今夏に正式決定する。

社会資本整備重点計画は、08～12年度の5年間の対象に社会資本整備事業の重点目標を定めたもので、改定計画が今年3月31日に閣議決定された。これを踏まえて地方ブロックごとの方針案が

まとめられた。国土形成計画の広域地方計画と並行して検討が進められており、内容が連動している。

各ブロックごとの方針案で示された主要事業や指標を見ると、北海道では千歳川遊水池群や北海道横断自動車道（夕張～占冠）の整備などが挙げられた。東北では、日本海沿岸東北自動車道や三陸縦貫自動車道の整備のほか、整備新幹線事業な

どが盛り込まれた。関東では、羽田空港の再拡張や、東京港と横浜

港での国際海上コンテナターミナル整備、密集市街地の改善などに取り組みとしている。中部ブロックでは、伊勢湾スーパー中核港湾プロジェクトを推進するほか、東海環状自動車道（関広見～四日市）などの交通網を強化。

近畿では、奈良県今井町地区の街なみ環境整備事業など歴史・文化を生かした街づくりに取り組むとともに、神戸港での次世代高規格コンテナターミナルの整備などを進めるとした。

このほか、北陸では能越自動車道の整備など、中国では福山港での多目的国際ターミナル整備事業など、四国では吉野川水系の砂防事業などが盛り込まれた。九州では、福岡空港の施設更新・改良など、沖縄では那覇港の大型旅客船ターミナル整備などに取り組んでいる。

方針案などは、国交省のホームページ（http://www.mlit.go.jp/report/press/kokudo05_hh_00017.html）に掲載している。